

## ウクライナ侵攻と人民元



小倉 祥徳

中国とロシアの関係強化が通貨面でも広がっている。ロシアのウクライナ侵攻に伴う経済制約によって米ドルやユーロが調達しにくくなったことで、ロシアで人民元の存在感が急上昇。中国が進める人民元の国際化につながりそうだが、世界的な浸透には大きな壁がある。

ロシア中央銀行によると、2022年1月から12月、ロシアの輸入品の決済のシェアは、人民元は4%から23%に上昇。ルーブル決済と合わせると50%で、65%から46%に減少したドルとユーロの合計を上回った。外国為替市場での人民元のシェアも30%を超え、首位だった米ドルを初めて上回った。

さらに中国メディアなどによると、昨夏以降、ロシアの化学企業や石炭大手がそれぞれブラジルとインド企業との取引で人民元建て決済を開始。中露以外でも利用が徐々に広がっているように見える。

だが今後も、人民元決済が世界で拡大し、金融市場の覇権を握る米ドルのような存在に急速に近づくのは難しそうだ。最大の障壁は、中国が自ら国外への資

金持ち出しを厳しく制限していることだ。国内総生産（GDP）は世界2位の経済大国だが、有事の際の国外への資金逃避をなお懸念している。米国の著名な投資家、マーク・モビアス氏が今年3月、「上海市の銀行口座から資金を引き出せない」と批判して注目を集めたが、企業も含めて「あまりにも使い勝手が悪い」（国際金融筋）のが現状だ。ロイター通信によると、中国への依存を強めるロシアとは異なり、インド当局はロシアからの輸入で人民元を使わないよう呼びかけているという。

では資本規制は今後どうなるのか。中国当局は、外資だけではなく国内富裕層の資金逃避も強く警戒するが、格差是正を目指す「共同富裕」など習近平国家主席の経済政策を懸念し「海外脱出を図る富裕層が増えている」（国有企業関係者）と見られており、大幅な規制緩和が急に進むとは考えにくい。

国際銀行間通信協会（SWIFT）によると、世界での人民元の決済シェアは22年12月は約2%と世界5位にとどまり、約42%の米ドルとの差は大きい。中国は将来の台湾有事でロシアのように米国から金融制裁を受けることを警戒し、自身も脱ドル依存を目指しているとされるが、道のりはなお険しい。